

7 指導と評価の計画 (12 時間)

時数 時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
5	1 集合、整列、健康観察												
10	2 準備運動 手首、肩、首など主に動かす部分をほぐす											2 準備運動 手首、肩、首など主に動かす部分をほぐす	
15	3 感覚づくり 第1時～第4時で行った動きを取り入れて、にんじゃごっこに必要な基礎的な動きづくりを行う												
20	4 試しの運動をする 体育館につくった様々な場で活動してみる	4 オリエンテーション 単元の学習課題「スーパー忍者になるう」や学習の流れの確認	4 渡る動き・跳び乗る跳び下りる動きを紹介する <u>渡る動き</u> 前向き・横向き・後ろ向き・手足歩き・すれ違いなど <u>跳び乗る跳び下りる動き</u> うさぎ跳び・馬跳び・またぎ乗りとまたぎ下り・跳び乗りと跳び下りなど	4 第4時～第7時のめあて「修行の旅の動画を作ろう①」 全体のめあてを確認し、個人のめあてを記入する				4 第8時～第11時のめあて「修行の旅の動画を作ろう②」 全体のめあてを確認し、個人のめあてを記入する				3 「修行の旅」発表会を行う	
25		5 転がる動き・逆さまの動きを紹介する <u>転がる動き</u> ゆりかご・だるま転がり・丸太転がり・前転がり・後ろ転がりなど <u>逆さまの動き</u> かえるの足うち・背支持倒立・ブリッジ・川跳び・壁登り逆立ちなど	5 試しの運動をする 前時と同じように活動する	5 修行の旅を考える (3時間×2) 体育館にある場を使って、いろいろな動きに挑戦する <u>全体支援</u> (1) 主発問 「転がる術・逆さまの術・渡る術・飛び乗り跳び下りの術を組み合わせで自分だけの修行の旅をつくりましょう」 (2) 追発問 「上級ににんじゃになるために、全部の術が入った旅をつくれるといいですね」 <u>個別支援</u> ・ 怖い、痛いなどの理由で活動に意欲的になれない → クッションやセーフティマットを使い、怖さや痛さを和らげる ・ 同じ場所で活動し続けている → 「上級ににんじゃになるために、いろいろな術に挑戦してみよう」 ・ うまく回れない、跳べないなどで困っている → 場を優しくしたり、補助したり、友達の助けを借りたりする <u>全体支援</u> ・ 新しい動きが生まれず、活動が停滞してきた → 必要に応じて、場を新しくついたり、変更したりする → 新たな視点を与える (連続で・何秒で・速く・ゆっくり・違う方向・組み合わせ・違う場や道具で・一緒に) ・ 動きは面白いが危険である → マットを追加するなど、安全面に配慮する → 危険でない違う動きへ促す									
30	<u>全体支援</u> 主発問 「スーパー忍者になるために、いろいろな場でいろいろな動き方をしてみよう」 <u>個別支援</u> ・ うまく転がれない → 「首を中に入れてみましょう」 → 坂道マットやセーフティマットでやらせてみる ・ 逆さまの動きができない → 「あごを上げてみましょう」 ・ 渡る動きが怖い → 「手を着いて渡ってみましょう」 → 「友達に手を持ってもらいましょう」 ・ 飛び乗ったり跳び下りたりすることができない → 手の着く位置を助言する → 低い場所で行わせたり、セーフティーマットを使ったりする												
35	6 修行の旅に出る (1時間×2) 転がる・逆さま・渡る・跳び乗る跳び下りる場で、動画を撮って修行の旅を完成させる <u>全体支援</u> (1) 主発問 「転がる術・逆さまの術・渡る術・飛び乗り跳び下りの術の動画を撮って自分だけの修行の旅をつくりましょう」 (2) 追発問 「撮りながら、友達に動きを紹介しましょう」 <u>個別支援</u> ・ 一部の術しかできない → 友達や教師が補助をしながら行ってもよいことを伝える												
40	・ 本時の振り返り 様々な動きを行ってみて、気付いたことを学習カードにまとめる												・ 本時の振り返り 挑戦した動きについて学習カードにまとめ、次時のめあてを考える

45	・ 整理運動 ・ 片付け											
----	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価の重点	知		② (観察)	③ (観察)		① (発言・カード)		②③ (観察)		① (発言・カード)		②③ (観察)
	思				④ (カード)	⑤ (活動・カード)	⑥ (発言・カード)		④ (カード)	⑤ (活動・カード)	⑥ (発言・カード)	
	態	⑦ (活動・カード)	⑨ (活動・カード)						⑧ (活動・発言)			

単元末に期待される具体的な子どもの姿

いろいろな場があったので、わくわくしながら楽しく活動することができた。友達の動きを見てまねしたり、友達と一緒に新しい動き方を考えたりしながら活動することで、自分一人では気付かなかった動きをたくさん見つけることができた。難しすぎたり、簡単すぎたりする場でも、自分たちで場を変えながら活動することができるので、最後まであきらめずに活動することができた。また、友達に自分の動きを見てもらうことで、自分が苦手な動きが分かり、その動きをたくさん練習することで、できなかった動きができるようになってうれしかった。自分も友達の動きを見て、アドバイスできるようになりたいと思った。